

冬来たりなば春遠からじ、と思いつつ、ひたすら春を待ち焦がれている毎日です。今年は例年になく大雪と寒さで、家路に向かうのも足早になります。暖かいこたつや暖炉が心まで癒してくれます。

子ども達のまわりには、ノロウイルス・インフルエンザ・風邪が蔓延し、体調を崩し始めの子を狙っています。前日の夜や当日の朝、子どもが不調を訴えたら要注意です。子どもの様子をしっかりと把握して、正しい判断をしてください。保健室でお家の人を待ちながらベッドに横になっている子どもはとても痛々しげです。子どもにとって、家族がどんなにか恋しいか、切実に伝わってきます。うるさくて頭にきて、反抗しても、元気なときが一番ですね。

< 乾いた時代に > 富士河口湖町教育長 梶原 正孝

今、世の中は「乾いた時代」にあるという人がいます。「能率」「効率」「的確」などが生活、仕事、学習など老若を問わず生きていくあらゆる場面で要求されています。これを「イエスカノーの世界」とか「デジタルの時代」あるいは「二者択一の時代」「乾いた時代」と表現する人がいます。

しかし、人間は本来「感情や情緒」を持った「湿った」生き物だと思うのです。「好き、嫌い」や「喜怒哀楽」を持った「理屈では解釈できないところを持った生き物」なのです。大人や子どもたちの多くの悩みの原因はその矛盾にあるような気がします。今、教育は特に「人間らしさ」に立ち戻ることが必要なのかもしれない。「二者択一を迫る」「理詰めを考えることだけを要求する」、つまり「追い込む」「追い込まれる」場面に自分も、子どもたちもいるようになってはいないでしょうか。わが子に悩まれている親御さん、子どもたちが今の自分を振り返ってみたいとき、つま先の方向にあるのが『教育センター』だろうと思うのです。



< 寒い夜はみんなで話しましょう！ > 相談室から

無人島に10日間、リュックに何を詰めていきますか？お米・マッチ・かんづめ・着替え2回分・ノート・ボールペン・本3冊。こんなに入るかなあ。着替えを1回分にして、ノートはなるべく小さいサイズに。懐中電灯はどうしよう。そうだ！リュックには入らないけれど、友達を誘うのが一番いいかも。

家族で考えてみてください。家族みんなで無人島、一人で無人島、設定によっても違ってくるとは思いますが、今自分が大切にしているものが見えてきませんか？

「もしも・・・だったら」を子どもと考えてみませんか。楽しい会話をとおして、子どもをより知ってください。子どもの心に触れてください。子どもにとっても素敵な時間になるはずですよ。子どもは、親といるときがどんなときより喜ばしいものだから。大切にされていると感じるときだから。